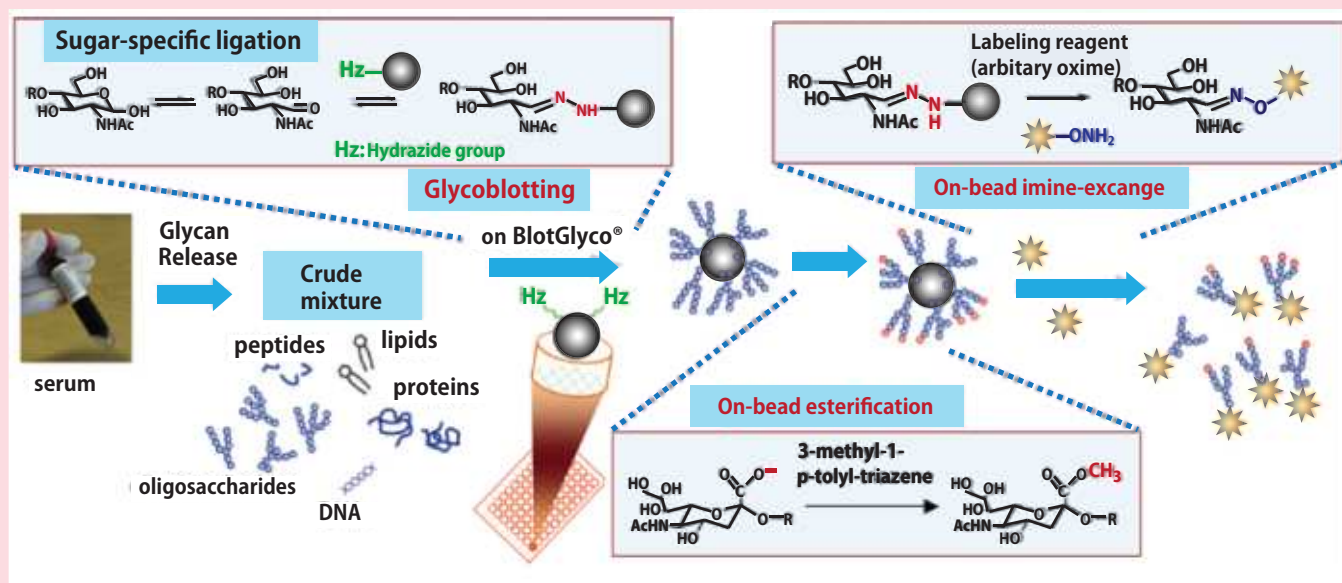


糖タンパク質の糖鎖構造解析

Glycoblotting法と質量分析を駆使した糖タンパク質の糖鎖プロファイリング

Glycoblotting法とは？

「Glycoblotting法」は、化学選択的な糖鎖捕捉反応に基づいて、複雑な生体試料から糖鎖だけを網羅的かつ定量的に捕捉して解析する技術です。具体的には、アミノキシ基またはヒドラジド基を有するビーズで糖鎖だけを捕捉し、ビーズ上でメチル化、ラベル交換反応を行うことで、糖鎖解析を可能とする方法で、この手法を用いて培養細胞、体組織及び粗精製タンパク質に含まれる糖鎖 (N型糖鎖、O型糖鎖、糖脂質) を解析します。



参考文献:
 Angew. Chem. Int. Ed., 2005, 44, 91-96. / Clin. Cancer Res. 2006, 12, 2506-2511
 Angew. Chem. Int. Ed., 2007, 46, 8808-8813 / Anal. Chem. 2008, 80, 1094-1101.
 Mol. Cell. Proteomics. 2010, 9, 523-537. / ChemBioChem 2013, 14, 73-82

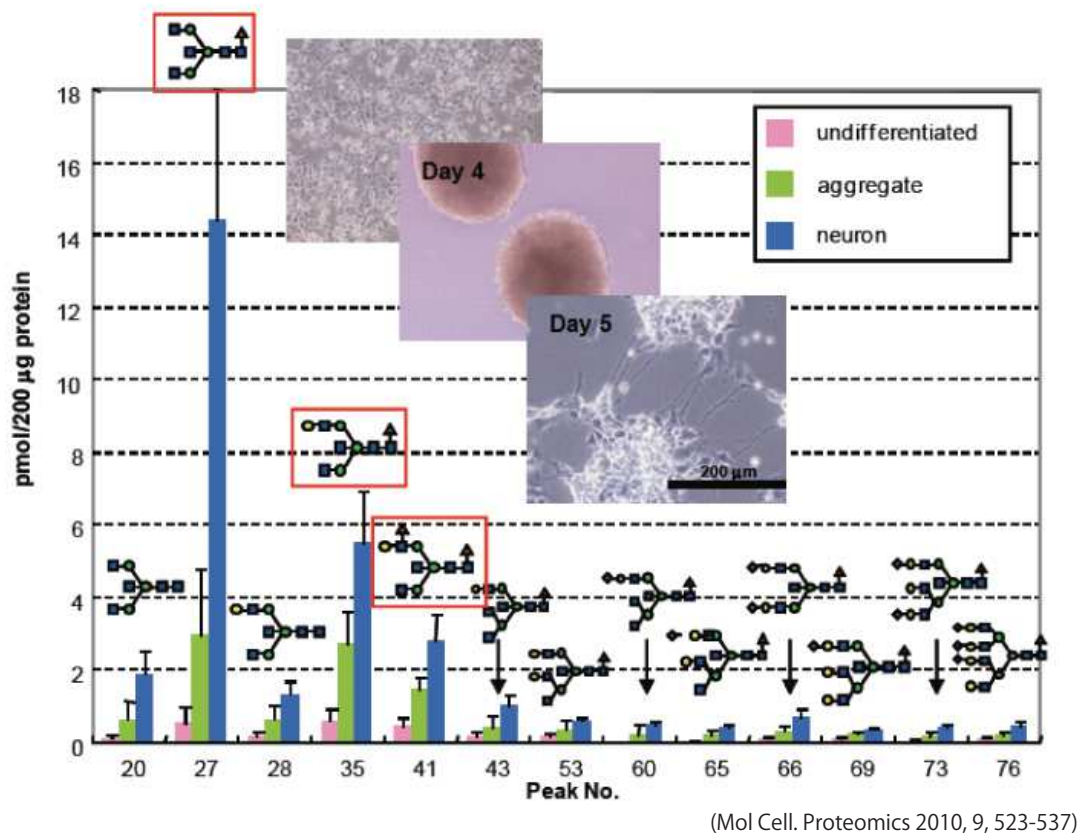
こんな方にお勧め

『培養細胞、体組織、粗精製タンパク質などに含まれる糖鎖を網羅的に調べたい。』

『発生段階や病態、薬剤処理の前後などによって変動する糖鎖マーカーを探索したい。』という方にお勧めです。

実施例や詳細な仕様は裏面に掲載

【実施例】 神経細胞の分化と糖鎖変化



仕様

◀ 解析可能な検体・必要量・納期 ▶

N型糖鎖解析

検体の種類	必要量	納期の目安
血清・血漿(ヒト)※	100 µL	2週間
血清・血漿(マウス)	50 µL	2週間
細胞	10 cm dish1枚分	4週間
組織※	10 mg	4週間
タンパク質	100 µg	2週間
FFPE切片	1 cm ² , 3 µm×3	4週間

O型糖鎖解析

検体の種類	必要量	納期の目安
血清・血漿(ヒト)※	100 µL	4週間
血清・血漿(マウス)	50 µL	4週間
タンパク質	100 µg	4週間

※臨床検体については、感染症法で定められた特定病原体、およびBSL3以上の検体を受け入れることができません。

◀ 報告内容 ▶

- 内部標準による規格化データ一覧(エクセルファイル)
- 推定構造一覧
- 作業報告書